



www.jcf.or.jp

シクリスムエコー No.178  
2011年アジア選手権 特集号

**第31回アジア自転車競技選手権大会**  
**第18回アジア・ジュニア自転車競技選手権大会**

2011年2月8日~19日 タイ・ナコンラチャシマ

**31st Asian Cycling Championships**

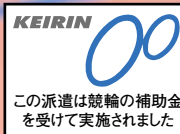
**18th Asian Junior Cycling Championships**

8-19 February 2011 Nakhon Ratchasima Province, Thailand





# TRACK RACES



←エリート男子スプリント金メダルの北津留上はZHANG Miao (中国)との決勝

## エリート 短距離

アジア選

手権が今年はタイで開催された。会場

となったのはバンコクから約200km離れた所にあるナコンラチャシマという町で、バンコクからバスで移動し約4時間で現地に到着。この時期でもタイは暑く、最高気温は35℃位まで上がる。それでも湿気が少ないので日陰に入ると過ごしやすい。大会は2月9日から14日の6日間で行われた。バンクは屋外の333mのアスファルトでできており、走路は日本のバンクのようになめらかではなくガタがあって走りづらい。

成績はチームスプリントでは雨谷一樹・浅井康太・北津留翼で予選を2位で通過し、決勝は予選1位の中国と対戦。日本チームは予選より良いタイムで走ったが中国にわずか0.02秒差でゴールした時はどちらが勝ったか判らないほどの接戦だったが結果は第2位だった。

スプリントは北津留と雨谷が出走。北津留は予選を10秒504で1位通過。雨谷は敗者復活で敗れて1/4決



エリート男子スプリントの雨谷(左)

勝に進むことができなかった。北津留は1/4決勝、1/2決勝を難なく勝ち上がり、決勝戦も中国の選手をストレートで破り、金メダルを獲得。表彰式でセンターポールに日の丸が揚がり、君が代が流れた時は胸が熱くなる思いだった。

ケイリンは浅井と雨谷が出走。2人とも予選・準決勝を勝ち上がり、決勝

戦に進出。決勝戦は雨谷が浅井の前を回り、最終バックを雨谷が番手に入り、浅井は3番手だったがゴールで鋭く伸びて1着。雨谷は5着。ケイリンでも浅井が金メダルを獲得し国歌を聞くことができた。海外で聞く国歌は何とも言えない感激がある。

女子は今回は新潟のクラブスピリッツの加瀬加奈子と中川諒子が参加。2



人共初めての経験で大分緊張感があり実力を発揮出来ないのではと心配したが、チームスプリントでは48秒906のタイムで5位に入りまずまずの結果だった。優勝した中国が46秒192で差があるが、2位の韓国とは1秒差、3位の台湾、4位のホンコンとは0.5秒以内の差だった。

スプリントは2人とも予選を通過できず、ケイリンも予選で敗れ、決勝に進むことができなかった。今後は2人共ガールズ競輪に合格したので、より一層努力を重ね経験を積みばもっともっと強くなるだろう。

今回のアジア選手権はエリートの短距離で金メダルを2個と銀メダル1個を獲得し、オリンピック出場へ向け大きく前進した大会だった。選手の健闘に心から拍手を送りたい。

また、今回はジュニアチームの活躍がすばらしく、チームスプリント、ス

クラッチ、団体追抜競走、ポイントレースの4種目で金メダルを獲得し、他の種目でもメダルを量産し選手全員がメダルを獲得するという活躍で、チーム全体が勢いをつけてくれた。将来エリートチームに入り世界で飛躍で

きるような選手に育ってくれることを願っている。ジュニアのチームをまとめてくれた白河実業高校の班目先生と我々スタッフは毎晩ミーティングを行い、有効な日々を送れたことに感謝申しあげたい。（監督 阿部 道）



エリート男子チームスプリント銀メダルの雨谷・浅井・北津留（左から）



AWANGから祝福を受ける浅井

エリート男子ケイリン決勝



金メダルの浅井

4位の雨谷





**【競技結果】**

第31回アジア自転車競技選手権大会  
(2011/2/9-14 タイ・ナコンチャシマ)

【トラックス 短距離】

<エリート男子>

スプリント

- 1 北津留 翼 JPCA JPCU 福岡
- 2 ZHANG Miao CHN
- 3 AWANG Mohd Azizulhasni MAS



- 9 雨谷 一樹 JPCA JPCU 栃木

1km タイムトライアル

- 1 TISIN Mohd Rizal MAS 1:04.953
- 2 ZHANG Miao CHN 1:05.949
- 3 HAN Jaeho KOR 1:07.109
- 5 佐々木 龍 榊川 早稲田大 1:09.245

ケリッ

- 1 浅井 康太 JPCA JPCU 三重



エリート女子スプリントの中川 (手前)



- 2 NG ONN LAM Josiah MAS
- 3 AWANG Mohd Azizulhasni MAS
- 4 雨谷 一樹 JPCA JPCU 栃木

チームスプリント

- 1 中国 1:01.254
- 2 日本 雨谷・北津留・浅井 1:01.408



- 3 マレーシア 1:02.378

<エリート女子>

500m タイムトライアル

- 1 LEE Wai Sze HKG 35.414
- 2 GUO Shuang CHN 36.363
- 3 MUSTAPA Fatehah MAS 37.016
- 6 中川 諒子 新潟 Club Spirits 37.823

スプリント

- 1 GUO Shuang CHN
- 2 LIN Junhong CHN
- 3 LEE Wai Sze HKG
- 8 中川 諒子 新潟 CLUB SPIRITS
- 9 加瀬加奈子 新潟 CLUB SPIRITS

ケリッ

- 1 GUO Shuang CHN
- 2 PARK Eunmi KOR
- 3 GONG Jinjie CHN
- 9 中川 諒子 新潟 CLUB SPIRITS
- 10 加瀬加奈子 新潟 CLUB SPIRITS

チームスプリント

- 1 中国 45.887
- 2 大韓民国 47.265
- 3 ホンコン・チャイ 47.749
- 5 日本 加瀬・中川 48.906



エリート女子ケリリンの中川 (左)と加瀬 (中央)



エリート男子個人追抜、3～4位決定戦で TUYCHIEV, Vladimir を追い抜く窪木(左)

## エリート中距離

エリート中距離は7種目にエントリー。男子個人追抜に出場した窪木は4分44秒021で予選3位通過。順位決定戦では、快調なペースを保ち相手選手を追抜き、銅メダルを獲得した。

男子ポイントレースでは、西谷が4位。他選手のマークがきつかったことと、1週間前に40度の発熱をし体調が万全でなかったことが影響、残念な結果に終わった。

男子団体追抜は予選タイム4分25秒739で3位。イランとの順位決定戦では、好調な窪木がレースを引っ張りハイペースで進む中、相手チームに落車発生。相手チームの途中棄権により銅メダルを獲得した。

男子スクラッチには元砂が参加。本来の積極性が影を潜め、8位と惨敗。大学に入り、伸び悩んでいる元砂だが、ポテンシャルの高さは誰もが認めるところであり、本人の奮起に期待したい。

男子マディソンは西谷・窪木コンビが出場。経験豊富な西谷が若い窪木をリードし、銅メダルを獲得。審判の判定が日本チームに不利に作用したが、実力的には2位の力があつたと言える。

男子オムニアムには盛が出場。相手とのポイント差と力量を冷静に分析しながら、毎レース組み立てる。着実にポイントを積み重ね、19ポイントで総合3位。

女子オムニアムは現地に於て、好調な上野の起用を決定。ポイントレースで1位、スクラッチで2位と活躍。5種目終了時点では暫定1位。最終的には優勝者と僅差の3位と大健闘であった。男女オムニアムはオリンピックポイントの観点から、このアジア選手権がとても重要な大会であった。男女とも3位を確保でき、貴重なポイントを積み重ねることが出来た。

結果を比較すると、4月のアジア選手権、11月のアジア大会よりも、好成績を残すことが出来た。年間を通した強化体制の成果がようやく形となって現れたと言える。その主な要因としては、男子ではチームリーダーとして常に自覚を持ち行動した西谷の存在、女子では久しぶりに3kmの日本記録を更新し活力を与えた田畑の存在を挙げることができよう。この二人の言動に若手が触発され窪木や上野のような成長する選手が現れたことを大変、好ましく感じる。しかし、アジアのトップや世界の上位国とのレベルやタイムを比較すると、今の日本との差は歴然としている。今回、出場した中距離のジュニア選手は、皆、素晴らしい素質を兼ね備えていた。彼らのような可能性のある若手を交えて、中長期的な視野での強化体制の充実を図る必要がある。

(コーチ 吉井 功治)



エリート男子 4km 団体追抜競走 3位の佐々木・元砂・西谷・窪木(先頭から)

エリート男子オムニアム銅メダルの盛



**【競技結果】**

第31回アジア自転車競技選手権大会  
(2011/2/9-14 タイ・ナコンチャシム)

【トラックレース 中距離】

<エリート男子>

4km 個人追抜競走

- 1 JANG Sunjae KOR 4:35.370
- 2 HAGHI Alireza IRI 4:42.421
- 3 窪木 一茂 福島 日本大学 追抜勝



スクラッチ (10km)

- 1 JANG Sunjae KOR
- 2 MOAZEMI GOUDARZI Arvin IRI
- 3 BOONRATANATHANAKORN Thurekit THA
- 8 元砂 勇雪 奈良 鹿屋体育大学 -1lap

ポイントレース (30km)

- 1 RAJABLOU Mohammad IRI 52p
- 2 PARK Sungbaek KOR 51p
- 3 OTHMAN Mohd Adiq Hussainie MAS 45p
- 4 西谷 泰治 愛知 愛三工業レーシング 39p

オムニアム

- 1 CHO Ho Sung KOR 7p
- 2 KWOK Ho Ting HKG 16p
- 3 盛 一大 愛知 愛三工業レーシング 19p



マディソン (40km)

- 1 ホンコン 24p
- 2 イラン 17p
- 3 日本 窪木・西谷 15p



エリート女子オムニアム銅メダルの上野 (中央)



エリート男子マディソン銅メダルの窪木 (左)と西谷



エリート男子ポイントレース4位の西谷(中央)

4km 団体追抜競走

- |   |                 |          |
|---|-----------------|----------|
| 1 | 大韓民国            | 4:17.213 |
| 2 | ホンコン・チャイ        | 4:20.267 |
| 3 | 日本 西谷・窪木・佐々木・元砂 |          |



<エリート女子>

3km 個人追抜競走 日本不出場

- |   |                   |     |          |
|---|-------------------|-----|----------|
| 1 | LEE Jumi          | KOR | 3:49.062 |
| 2 | NONTASIN Chanpeng | THA | 4:02.329 |
| 3 | WU Chaomei        | CHN | 3:58.907 |

スクラッチ (7km) 日本不出場

- |   |                   |     |       |
|---|-------------------|-----|-------|
| 1 | TSENG Hsiao Chia  | TPE |       |
| 2 | WONG Wan Yiu      | HKG | -1lap |
| 3 | MANEEPHAN Jutatip | THA | -1lap |

ポイントレース (20km) 日本不出場

- |   |              |     |     |
|---|--------------|-----|-----|
| 1 | NA Ahreum    | KOR | 53p |
| 2 | WU Chaomei   | CHN | 46p |
| 3 | WONG Wan Yiu | HKG | 37p |

私コーム

- |   |                   |           |     |
|---|-------------------|-----------|-----|
| 1 | LEE Min Hye       | KOR       | 20p |
| 2 | MANEEPHAN Jutatip | THA       | 20p |
| 3 | 上野みなみ             | 青森 鹿屋体育大学 | 22p |



エリート男子スクラッチ8位の元砂(先頭)



夢への補助輪。 RING!RING!プロジェクト  
—— 競輪の補助事業 ——

ジュニア男子チームスプリント金メダルの長尾・田中・新山（左から）



## ジュニア

### <チームスプリント>

ギヤは全員48×14。長尾・田中・新山の並びで予選に臨んだ。それぞれが自分の役割をきっちり果たし予選は1位で通過した。決勝はマレーシアで0.9秒の差があった。

決勝では、予選の走りを修正し油断せずに自分達の走りをすることだけを頭に入れスタート位置についた。それぞれが、予選のタイムを上回り目標タイムである1分4秒台のタイム（長尾24秒441、田中19秒623、新山20秒551）で金メダルを獲得することが出来た。また、新山にいたっては午前中の予選、午後の1kmTTを走って2時間後という条件にもかかわらず頑張り

みせてくれた。

### <1kmタイムトライアル>

新山は48×14で臨んだ。スタートからぐんぐん加速し1周目は24秒台前半のタイムで入った。後半疲れが見えたが最後まで力を出し切り自己ベストで銅メダルを獲得することができた。日本に比べバンクコンディションが良くない条件でのこの走りは、今後に期待が持てる結果となった。

### <3km個人追抜競走>

ジュニアチームキャプテンでもある黒瀬が、日本チームの先陣を切って予選に臨んだ。練習では少し重い感じだと言っていたが本人と相談しギヤは48

×14を選択した。前半からスピードが持続せず苦しい状態が続いたが、何とか24秒台で後半をカバーし3分40秒807の3位タイムでゴールした。予選1位とのタイム差が0.7秒差、2位とは0.4秒差であったので悔やまれる結果となった。3・4位決定戦ではギヤを51×15に落とし予選の悔しさを晴らすべくレースに臨んだ。前半から快調に飛ばし3分36秒441と予選のタイムを大幅に更新し銅メダルを獲得した。



ジュニア男子1km タイムトライアル銅メダルの新山

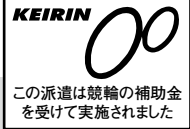


ジュニア男子個人追抜銅メダルの黒瀬





## '10-'11UCIトラック・ワールドカップ・クラシクス#4



## オリンピックポイントを加算

ワールドカップ第4戦が2月18日から20日までイギリスのマンチェスターで開催された。タイで行われたアジア選手権が終わってすぐの強行スケジュールで、14日夕方に成田空港に到着、ホテルに一泊して15日の便でドイツのミュンヘン経由でマンチェスターに到着した。17日の一日だけの練習で18日からの大会に臨んだ。

今回はナショナルチームとC.C.Tチームの2チームで参加。チームスプリントは雨谷一樹・渡邊一成・新田祐大のナショナルチームが44秒635で第6位だった。

スプリントは北津留が予選を第12位で通過、1/8決勝を勝ち、1/4決勝でドイツの選手に敗れたが、5~8位決定戦で勝ち第5位になった。

ケイリンは渡邊と浅井が出走。予選は敗れたが、敗者復活戦で二人共1着を取り準決勝に進んだが、ともに敗れて決勝進出はならなかった。二人は7~12位決定戦に出走したが、渡邊11位、浅井12位という結果だった。

女子は中川諒子と加瀬加奈子が出走。チームスプリントとスプリント、ケイリンに出場したが、世界の壁は厚く予選を通過することができなかった。二人にとってアジア選手権、ワールドカップと二戦続けて走ったが、初めての経験で特にマンチェスターは板張りの250mのバンクを初体験ということで、本来の実力を発揮できずに終わったような感じがある。

二人に限らず日本の女子選手は世界ではまだまだ通用しない実力で、今

後どうすれば世界で通用する選手を育成していくかが重要な課題だろう。来年からガールズ競輪が始まるので選手を目指す女子が多方面から集まり、自転車競技をやる女子が増えれば日本の女子のレベルも上がるのではないかと思う。

今回のワールドカップでも、男子はスプリント、チームスプリント、ケイリンでオリンピックのポイントを加算しており、タイのアジア選手権から強行スケジュールにもかかわらず、健闘してくれた選手に感謝したい。3月のオランダで開催される世界選手権も代表選手にがんばって欲しい。(監督 阿部 道)

## 【競技結果】

'10-'11UCIトラック・ワールドカップ・クラシクス#4  
(2011/2/18-20 ｲﾝｸﾞﾘｽﾞ・ﾏﾝﾁｪｽﾀｰ)

## 男子ｽﾌﾟﾘﾝﾄ

- 1 SIREAU Kevin FRA
- 2 KENNY Jason SKY
- 3 HOY Chris SKY
- 5 北津留 翼 JPCA JPCU 福岡
- 26 新田 祐大 JPCA JPCU 福島
- 38 柴崎 淳 CCT JPCU 三重
- 43 成田 和也 CCT JPCU 福島

## 男子ケｲﾘﾝ

- 1 HOY Chris SKY
- 2 NIBLETT Jason JAY
- 3 AWANG Azizulhasni YSA
- 11 渡邊 一成 JPCA JPCU 福島
- 12 浅井 康太 CCT JPCU 三重

## 男子ﾁｰﾑｽﾌﾟﾘﾝﾄ

- 1 ARCHBOLD Shane NZL 15p
- 2 CHO HoSung KOR 31p
- 3 VIVIANI Elia ITA 36p
- 盛 一大 愛知 愛三工業 予選敗退

## 男子ﾁｰﾑｽﾌﾟﾘﾝﾄ

- 1 フランス 43.534
- 2 ドイツ 43.715
- 3 SKY TRACK CYCLING 44.087
- 6 日本 雨谷・渡邊・新田 44.635
- 14 C.C.TOKYO 成田・柴崎・浅井 45.654

## 女子ｽﾌﾟﾘﾝﾄ

- 1 MEARES Anna AUS
- 2 GUO Shuang CHN
- 3 PENDLETON Victoria SKY
- 29 加瀬加奈子 新潟 CLUB SPIRITS
- 31 中川 諒子 新潟 CLUB SPIRITS

## 女子ケｲﾘﾝ

- 1 GUO Shuang CHN
- 2 SANCHEZ Clara FRA
- 3 PENDLETON Victoria SKY
- 25 加瀬加奈子 新潟 CLUB SPIRITS
- 37 中川 諒子 新潟 CLUB SPIRITS

## 女子ﾁｰﾑｽﾌﾟﾘﾝﾄ

- 1 オーストラリア 33.017
- 2 中国 33.173
- 3 フランス 33.347
- 18 日本 中川・加瀬 36.772

7th International Men Keirin Event  
(2011/2/20 ｲﾝｸﾞﾘｽﾞ・ﾏﾝﾁｪｽﾀｰ)

## 男子ケｲﾘﾝ

- 1 LEVY Maximilian GER
- 2 MULDER Teun NED
- 3 PERVIS Francois FRA
- 8 浅井 康太 CCT JPCU 三重
- 11 新田 祐大 JPCA JPCU 福島
- 12 雨谷 一樹 JPCA JPCU 栃木
- 13 渡邊 一成 JPCA JPCU 福島
- 16 成田 和也 CCT JPCU 福島
- 16 柴崎 淳 CCT JPCU 三重
- 19 北津留 翼 JPCA JPCU 福岡

日本航空

Dream Skyward. JAL

世界の空でお逢いしましょう。



www.jal.co.jp



## “ジュニア競技者に関する指導講座”をジュニア強化育成部会から発信します。

### トレーニングキャンプでのトレーニング内容

何のためにこれをやるのか？最後にどこにたどり着きたいのか？そのためにはこの時期何をやらなければならないのか？今日は何をするべきか？今からやるこのトレーニングは何のためにやるのか？常に選手に考えさせ、できる限り答えてあげてほしい。指導者に言われたことだけを実行して強くなった選手はその指導者のもとを離れた時にさらに強くなる選手でいることができない。ジュニア期は身体の急激な発育発達の時期であり、指導者の力が十分に反映され、記録の向上が目覚ましい時期である。選手は指導者に言われた厳しいトレーニングをこなすだけでも十分に強くなる時期である。しかし身体の成長が終わりをむかえれば、ジュニア期と同様のトレーニングでは強くなることができない。自分の考えを持たずに育った選手は身体の急激な成長による記録の向上であっても、自分の記録が急激に向上したときのトレーニングが正しいと言った固定概念から抜け出すことができなくなってしまう。

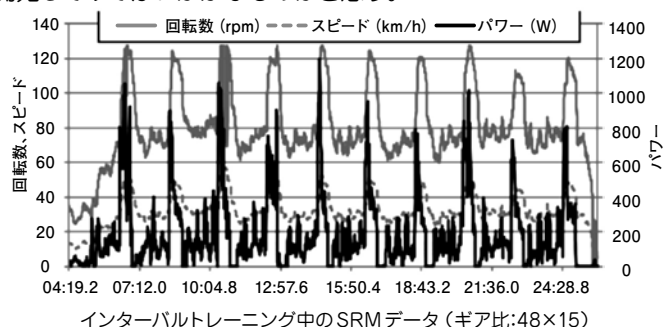
今年のジュニア・トラック世界選のチームパシュート（TP）に関して、ジュニア強化育成部会スタッフは4分15秒を目標に掲げていることをいつも合宿で選手に伝えている。この目標に対して、今年の開催国ロシアの競技場は日本人が苦にならない周長333mの高速バンクと言われ、記録を狙うには最高の舞台である。先日開催されたジュニア・アジア選においてもジュニアチームは屋外競技場で4分26秒262の好タイムを出している。彼ら、そして彼らと切磋琢磨している強化指定選手たちが4分15秒を目標に掲げることは馬鹿げていることではない。到達可能な目標である。このタイムを狙うために必要なことは、128rpm付近が世界的にジュニアTPでの平均回転数（前々号掲載）なのだから、そこからギアを見つけていくと3.57（50×14）倍のギアを踏めなければならないことになる。



踏まなければならないギア、回さなければならない回転数が解れば、トレーニングはシンプルに実行できる。まずは333mを20.9秒で走るためのトレーニングである。単純に考えれば333mを20.9秒で走れない選手は4分15秒のTPの選手にはなれない。トレーニングキャンプでは、1000mフライングを中心にギア比を変更しながら（3.20～3.54倍）トレーニングメニューを作成している。どのギア比でも目標タイムは1分3秒以内（150～134rpm）である。先ほどの333mで20.9秒、1000mで1分3秒単純な計算である。これがクリアできれば、2000mフライングで2分6秒が目標タイムになる。4名で1000mを1周交代で走ると先頭を走る回数は1回である。1回ずつ先頭で走って目標が達成できたら、次は2回ずつ走るトレーニングに移行していく。このようにして全員が4回、先頭を20.9秒で走ることができれば、4分15秒は達成されてしまう。しかし単純なことだから、選手にとっては難しい。いまだに強化指定選手であっても1分3秒以内は一度も達成されていない。ジュニア指導者が軽いギアでクランク回転速度を獲得することができた選手に対して、高いギアを踏むことの意味を理解させ、世界を目指してトレーニングを続けさせればすぐにこの目標タイムに到達することができると思う。

またこの1000mフライングを中心としたトレーニングの意味は競争種目であっても、スピードがなければ世界で戦うことができないことにもつながる。例えば前回のジュニア世界選のマディソンにおいて最終1000mのラップタイムが1分を切っている中、ゴールスプリントを行う。このスピードで戦うことが当たり前なのである。スピードがなければ、世界とは戦えないことをわかってほしい。ジュニアTPチームは、何のためにこれをやるのか？→日本新記録を狙うため、最後にどこにたどり着きたいのか？→表彰台、そのためにはこの時期（3月）何をやらなければならないのか？→基礎トレーニングを終わらせて高強度トレーニングを開始する、今日は何をするべきか？今からやるこのトレーニングは何のためにやるのか？→普段のトレーニングで軽ギアを踏み込まれているのだから、合宿時には高いギアを踏むトレーニングを行う、なぜ高いギアを踏まなければならないのか？→軽いギア、超高回転では世界と戦うことができない、高いギアー高回転でなければ世界で戦えないと言ったことを少しずつ理解させ、合宿を進めている。各地域のチームの考えや選手のレベルによって目標は異なってくると思う。しかしジュニア指導者たちは軽いギアで高いクランク回転速度を獲得できた選手にさらに高いクランク回転数を求めるのではなく、次に高いギアを踏み始めるトレーニングを開始してみたいかかなものかと思う。

トラックでのインターバルトレーニング中の男子選手のSRMデータを示す。インターバルトレーニングは、ステイヤーライン上で休息を取りながら、笛の合図でスプリンターラインに駆け下り30秒間全力走→笛の合図でステイヤーラインに上がり90秒間休息を10回繰り返す。1本目から全力で行き、10本目にはほとんどスピードが上がらない選手、10本とも中程度のパワーで走る選手とそれぞれの種目や競争パターンに合わせて走る。また休息中も慣性でペダルを回して疲れをとる選手、完全に脚を緩めて疲れをとる選手と





様々である。トレーニングの意味を考えれば、短距離群は1本目から全力、完全休息、中距離群は10本のパワーを高いレベルでそろえ、脚を回しながら休息するようにしなければならないことを思いつくだらう。このトレーニングを行う中で注意しなければならないことは、遅すぎる休息の取り方は落車を引き起こす原因となるだろうし、血液の循環が少なく、回復を遅らせる。したがって、短距離群であっても女子にラップされるほど遅い休息の取り方はないはずだ。

## トレーニングキャンプに利用するトレーニング機材

ジュニア強化指定選手のトレーニングにはどんな特別なものを使用しているのだろうかと思うかもしれないが、シンプルである。持参する機材は体重計、笛、ストップウォッチ、パソコン、プリンタ、ビデオカメラ、トランシーバー、ドライブレコーダー、SRMが主な機材である。

体重計は選手の体調管理に必須である。笛、ストップウォッチは指導者ならば、当たり前で持参するだろう。パソコン、プリンタはトレーニングの結果を記録、整理して選手に伝えるために使う。ビデオカメラはレース走を行うときやフォームの確認などに使用する。トランシーバーを利用する利点は車から選手へ指示が容易に出せること、そしてレース走の時にタイム差やレース指示が出せることである。選手の脇に車で出て行って、指示を出すことは危険を伴う行為である。例えば、レース走をしていても選手たちが互いに牽制して速度が遅くなるとは意味がない。そんな時、ひとりの選手だけにスタッフが情報を与え、アタックをかけさせ選手たちを活性化させることにも使えるだろう。ドライブレコーダーとは何かと思うかもしれないが、走行中のフロントガラスからの景色を車のエンジンがかかっているときにずっと取り続けている機械である。レース走を行うとき、必ず危険がないように車で伴走する。運転手が何もなくても映像やその時の車中の音声がすべて記録されていく。トレーニング後、その映像をパソコンで見ながら、選手は自分の走り方やその時の指導者の会話を確認することができる。SRM以外、何も特別に高価な機材を使用しているわけではない。合宿時のトランシーバーはスタッフが持ち寄せた数での対応である。高価な機材でトレーニングを行うことが強くなることではないと思う。どれだけ指導者のアイデアと熱意で現状の機材を使いこなすかがトレーニングの質を決めると思う。

トレーニングによく用いられる心拍計を選手自身は取り付けしている。合宿中、これに関してスタッフは管理しない。なぜなら心拍数が190bpmであっても勝負どころでアタックをかけられたら追わなければ負けてしまう。仲間とのトレーニング中、仲間とはぐれてもいいから高い心拍数を維持して効果的なトレーニングができたとき自己満足に浸ることが素晴らしいことではない。心拍数が高くて相手も千切って周りの選手に自分をアピールしようと思いつきながら、トレーニングをこなすことが素晴らしいことだと思う。どんなに素晴らしい心肺機能を作り上げても絶対的パワーが高くなければレースでは通用しないだろう。最大酸素摂取量が80ml/min/kg、600Wで1分間ペダルをこぎ続けられる選手よりも、最大酸素摂取量が60ml/min/kg、600Wで5分間ペダルをこぎ続けられるパワーを持つ選手が高い成績を収める可能性がある。心拍計を用いたトレーニングよりもSRMやパワーメータのようなパワー計を用いたトレーニングが世界の主流になってきているのかもしれないが、基本的には負けたくない、逃げ切つてやろう、次こそはと思う気持ちを選手に持たせながらトレーニングを続けさせることが最も効果的なジュニアのトレーニングなのではないだろうか。



ドライブレコーダーから撮影された映像  
(GPSが取り付けられているので速度と地図が出る)

## ジュニア選手たちは何のために自転車に乗るのだろうか？

ジュニア強化育成トレーニングキャンプの中で選手になぜ自転車に乗るのかを聞いてみた。最も多い答えが競輪選手になりたいから…であった。次に大学に進学するため…、海外プロチームで活躍したいからなどみんな目標を必ず持っている。しかしこの選手たちが所属チームへ戻ると、そこには目標を持たずにだらだらと時間だけが過ぎていくことを待つチームメイトがいるという。どんな世界も一緒かもしれない。高い目標を掲げ、それに向かって努力する選手、ただその近くにいるだけで自分もなんだか一生懸命頑張った気持ちになってしまう選手、努力をしているフリをしてまわりのモチベーションを低下させる選手。トレーニングキャンプは普段のトレーニングよりもかなり高強度でのメニューが多くきついはずである。しかし今年の強化指定選手にはネガティブな発言をする選手がいない。全員がまとまり、切磋琢磨している。目標をつくり、道筋を立て、理解させることができればあとは転がって行くだけである。はじめの一握りを握ることができれば、雪玉のように転がるだけで大きくなっていく。途中、道を間違い何かにぶつかったとき、芯がしっかりしていない雪玉は二つに割れてしまう。しかしはじめの一握りが固くしっかり握られていれば、ぶつかって歪になっても、また転がり出すことができる。初めの一握りをどれだけ固く握れるかが大切であると、大学時代の恩師が言っていたことを思い出す。一度転がり出して大きくなってしまったら、途中で芯を硬く握り直すことは不可能である。選手はよい方向にも悪い方向にも簡単に変わる。しかし芯がしっかり握られていれば、時間がかかろうとも最後に彼らは正しい方向に進んでいくはずである。はじめの一握り、ジュニア指導者に期待されることだと思う。次回は長期トレーニング計画を作成する上で必要なことについて報告します。

(JCF強化コーチ 佐藤孝之)



# 2011年シクロクロス世界選手権大会

## ジュニア沢田、過去最高の16位!



翌1月30日、午前中の女子のレースには国内選手権6連覇中の豊岡が出走。気温が低く硬い路面の中、豊岡は好スタートをきった。序盤順調な走りを見せたがハイスピードの下りで大きく落車。軽い脳震盪を起こしそのまま病院へ行くことになってしまった。まもなく会場に戻ってきたが、肩まわりを痛めてしま

い残念な結果となった。

午後は強豪がひしめくエリート。昼過ぎから急激に気温が上がり路面が緩んだ。スタートの陸上トラックでの位置争いはすさまじく、集団は物凄い勢いでフィールドへ入っていった。間もなく集団後方で落車があり、丸山はここで大きく遅れをとってしまった。国内チャンピオンの辻浦はスムーズなスタートができ集団中ほどからさらに順位をあげるべく力走したが、立て続けにパンクをしまい大きく後退。序盤にレースを終えることになってし

2011シクロクロス世界選手権がドイツ南西部の街ザンクトヴェンデルで開催された。現地に到着したときにはかなり暖かく予想外のコンディションであったが、大会を迎える週末には大寒波が到来し急激に気温が下がった。

1月29日、午前ジュニアのレース。前日からの放射冷却でカチカチに凍結した路面は試走での轍が残り、非常に走り難いコースコンディションへと変化した。スタートは陸上競技場のトラック。すさまじい勢いでレースが始まった。沢田はこの流れに少々乗り遅れたが、コース序盤のキャンパー区間で他国選手が混乱している横をすり抜け一気にジャンプアップ。一時は12番手まであがる走りをみせた。後半パンクもあり少し順位を下げたがトップから2分14秒遅れの16位でのゴール。前の集団に残れたら順位が大きく違っていただけに課題が残ったが、ジュニアでは過去最高の順位を残すことができた。来シーズンもジュニアで走れるので、今後の走りに期待したい。



ジュニアで力走する沢田

まった。落車で遅れを挽回した丸山も良いペースで順位を上げたが、5周回を残しレースを後にすることになった。

日本選手は年々確実にレベルアップしているが、世界のトップレベルはそれ以上のスピードで上がっている。今回エリート・女子で結果を残すことができなかつたのはひしょうに残念だったが、ジュニアでの好成績は今後の日本選手の活躍を期待させてくれるものであった。更なる上位を目指せるよう、若手選手を中心に基礎からの強化を進めたい。(澤田 雄一)

### 【競技結果】

2011年シクロクロス世界選手権大会  
(2011/1/29-30 ドイツ・ザンクトヴェンデル)

男子U17 (31.07km)

- |    |               |            |         |
|----|---------------|------------|---------|
| 1  | STYBAR Zdenek | CZE        | 1:06:37 |
| 2  | NYS Sven      | BEL        | +0:18   |
| 3  | PAUWELS Kevin | BEL        | +1:15   |
| 50 | 丸山 厚 長野       | MASSA      | -5laps  |
| 54 | 辻浦 圭一 奈良      | ブリヂストンアンカー | -7laps  |

女子U17 (17.07km)

- |   |                   |           |       |
|---|-------------------|-----------|-------|
| 1 | VOS Marianne      | NED       | 40:31 |
| 2 | COMPTON Katherine | USA       | +0:17 |
| 3 | NASH Katerina     | CZE       | +0:20 |
|   | 豊岡 英子 大阪          | パナソニックデイス | DNF   |

男子U23 (19.87km)

- |    |                   |         |        |
|----|-------------------|---------|--------|
| 1  | VENTURINI Clément | FRA     | +44:31 |
| 2  | DOUBEY Fabien     | FRA     | +0:15  |
| 3  | DOUBEY Loic       | FRA     | +0:15  |
| 16 | 沢田 時 滋賀           | ENDLESS | +2:14  |

男子U23 (22.67km) 日本不出場

- |   |                   |     |       |
|---|-------------------|-----|-------|
| 1 | VAN DER HAAR Lars | NED | 52:01 |
| 2 | TEUNISSEN Mike    | NED | +0:01 |
| 3 | HNIK Karel        | CZE | +0:01 |

AEON  
OFFICIAL SPONSOR

イオンは、  
日本ロードナショナルチームの  
オフィシャルスポンサーです。

**feel the earth**

もっと楽しく、もっと優しく

Photo: Kenji Nakamura





ジュニア男子スクラッチ金メダル久保田のフィニッシュ



<スクラッチ>

久保田は予選なし9名での決勝レースに48×14のギヤで臨んだ。作戦は吉井コーチからのアドバイスもありラスト5周からタイミングよく飛び出すこと、韓国・タイの選手をマークすることだった。前半はスローな展開でレースが進んだがこれらのことを忠実に実行しラスト5周から完璧に独走状態に入った。最後はガッツポーズでゴールする余裕までであった。

<スプリント>

ギヤは48×14、予選は田中4位(11秒535)、長尾7位(11秒771)のタイムで通過した。

1回戦はそれぞれ自分の得意のパターンに持ち込み1/4決勝に進んだ。

田中の1/4決勝1回戦、先着はしたがゴール前にブルーバンド走行があり降格となった。続く2回戦・3回戦は1回戦の反省を生かし流し先行しながら

相手を前に出させないレースで勝利した。長尾も巧みに前をとり、内で合わせながらのレースで2勝し1/2決勝に駒を進めた。田中の1/2決勝は予選1番タイムの選手。自分のレースを心掛け前で力を出すレースをしたがストレート負けで3・4位決定戦となった。長尾は予選2番タイムの選手と対戦、1本は取られたが1/4決勝同様に巧みに前をとり、内で合わせながらのレースで2勝し決勝へ駒を進めた。田中は、絶対にメダルを取るという強い気持ちでレースに臨みストレート勝ちをおさめ銅メダルを獲得した。長尾も得意のパターンに持ち込み貪欲に勝利を目指したがストレート負けを喫し銀メダルとなった。

<ケイリン>

予選2組、上位3名が決勝進出ということもあり失敗が許されないレースだった。田中・長尾ともに48×14のギ

ヤで臨んだ。1組目の田中は中段をキープし飛び出すタイミングを計っていたがワンテンポ踏み遅れた為の後方に追いやられ6着予選敗退となった。長尾は、スタートで2番手の位置を確保。イランの選手がそのまま先行体制に入ってくれたので、後方を確認しながらゴール前でかわし、予選1着で決勝進出を果たした。決勝での作戦は、前を取るかタイの選手(1kmTT・ケイリン優勝)の後ろ、それ以外だったらペーサーが離脱した瞬間に前に出るというものだった。レースはタイの選手の番手という絶好の位置取りができた。ペースが上がリラスト1周になったところで内が開いた瞬間に、なかなか動きを見せないタイの選手にしびれを切らし、内を付いてしまった。中段でのゴールではあったがブルーバンド走行をとられ降格6位という結果だった。

<ポイントレース>

橋本は予選なし9名での決勝レースに51×15のギヤで臨んだ。作戦は特にたてななかったが、集団から飛び出すタイミングなどのアドバイスを吉井コーチからいただいた。レース前から落ち着いており2回目のポイントから行きますという言葉通り他を寄せ付けない強さで圧勝した。

<チームパーシュート>

久保田・黒瀬・橋本・新山の番手、ギヤは48×14で予選に臨んだ。まずは、決勝へ進むことが重要だったので、スタートの入りを若干抑えてペースで走りきり4分30秒台前半のタイムを設定した。周回を重ねるごとにラップにバラつきが見られ苦しい走りとなった。タイムは、4分36秒867(1分13



ジュニア男子スプリント銅メダルの田中(右)



ジュニア男子スプリント銀メダルの長尾(右)



ジュニア男子ポイントレース金メダルの橋本



秒 842、1分 7秒 157、1分 8秒 427、1分 7秒 441) で韓国に次ぐ2位で決勝進出を果たした。タイム差は1.8秒で十分に逆転を狙える位置にいた。決勝は2日後なので予選の走りでもつなげる部分をビデオやラップなど、メンバー全員で確認し修正した。また、ギヤを51×15に落とし、それぞれ

ジュニア男子ケイリン 6位の長尾(中央)



の役割をはっきりと明確にした。キャプテン黒瀬を中心にしっかりと選手同士ミーティングを行っていたようで「センターポールに日の丸を！」を合言葉にスタートした。決勝は、予選より若干速めに入り2周目は、上げすぎず3周目の橋本からペースを作りラスト1kmからが勝負という作戦通り、疲れが見えた韓国を一気に逆転し金メダルを獲得することが出来た。終わってみれば予選のタイムを約10秒縮め4分26秒262(1分10秒946、1分6秒160、1分4秒772、1分4秒384) というすば

らしいタイムだった。

※今回のジュニアチームは、全員が海外レース初経験であったが臆することなく、まとまりのあるすばらしいチームであった。個々の能力はさることながら、競技に取り組む姿勢や仲間を思い、やる気持ちなどを持ち合わせており、今後の可能性を大いに感じることに出来る選手たちであった。また、事前合宿を通じてギヤに対する固定観念を取り払い練習の意味を理解し、取り組んできたことも今回の結果に大いに結びついたと確信します。(班目 真紀夫)



ジュニア男子団体追抜金メダルの橋本・新山・久保田・黒瀬





**【競技結果】**

第18回アジア・ジュニア自転車競技選手権大会  
(2011/2/9-14 タイ・ナコンチャシム)

<ジュニア男子>

スプリント

- 1 AMRAN Mohd Arfy Qhairant MAS
- 2 長尾 拳太 岐阜 岐阜第一高校
- 3 田中 誇士 静岡 伊豆総合高校



1km タイムトライアル

- 1 SIANGLAM Satjakul THA 1:06.893
- 2 AMRAN Mohd Arfy Qhairant MAS 1:07.825
- 3 新山 響平 青森 八戸工高 1:07.920



ケリソ

- 1 SIANGLAM Satjakul THA
- 2 DANESHVARKHOURRAM M. IRI
- 3 WU Lok Chun HKG
- 6 長尾 拳太 岐阜 岐阜第一高校
- 11 田中 誇士 静岡 伊豆総合高校

3km 個人追抜競走

- 1 KIM Hong-Ki KOR
- 2 SADIPOUR Payam IRI
- 3 黒瀬 耕平 岡山 岡山工高 3:36.441



スクラッチ (7km)

- 1 久保田元気 福島 学法石川高校
- 2 KIM Hong-Ki KOR
- 3 SANIKWATHI Thanawut THA



ポイントレース (16km)

- 1 橋本 英也 岐阜 岐南工業高校 28p
- 2 LEUNG Chun Wing HKG 19p
- 3 PARK Sang-Hoon KOR 5p



チームスプリント

- 1 日本 田中・長尾・新山 1:04.585



- 2 マレーシア 1:05.569
- 3 イラン 1:06.165

4km 団体追抜競走

- 1 日本 新山・黒瀬・橋本・久保田 4:26.262



- 2 大韓民国 4:26.577
- 3 イラン 追抜勝

<ジュニア女子> 日本不出場

スプリント

- 1 CHO Sun-Young KOR
- 2 HAN Songyi KOR
- 3 PROMBOOT Apinya THA

ケリソ

- 1 CHO Sun-Young KOR
- 2 HAN Songyi KOR
- 3 SOMNET Jupha MAS

500m タイムトライアル

- 1 CHO Sun-Young KOR 38.452
- 2 SOMNET Jupha MAS 40.544
- 3 PROMBOOT Apinya THA 40.593

チームスプリント

- 1 大韓民国 49.925
- 2 マレーシア 51.540
- 3 ホンコン・チャイ 51.054

スクラッチ (5km)

- 1 OH Hyeon-Ji KOR
- 2 SOMNET Jupha MAS
- 3 HSIEH Yi Jung TPE

2km 個人追抜競走

- 1 OH Hyeon-Ji KOR 2:42.896
- 2 CHUMLUAE Jariya THA 2:47.754
- 3 LEUNG Bo Yee HKG 2:44.893

ポイントレース (10km)

- 1 OH Hyeon-Ji KOR 21p
- 2 ULBRIKHT Valentina KAZ 16p
- 3 CHUMLUAE Jariya THA 10p

3km 団体追抜競走

- 1 大韓民国 4:02.584
- 2 マレーシア 4:05.388
- 3 タイ 4:07.224





# ROAD RACES



エリート男子個人ロードレース、ウズベキの HALMURATOV と逃げる新城

## ロードレース

エリートはロンドンオリンピック参加枠（アジア大陸枠）取りに備え、タイ北部チェンライで9日間の事前合宿を行った。

今大会に参加した、福島晋一、宮澤崇史、新城幸也は事前に現地入り、2月4日、畑中勇介、明珍裕子が合流し大会に備えた。

## 【個人タイムトライアル】

2月26日

### ●エリート女子 (34.8km)

11ヶ国11名が参加、日本からは上野みなみがスタート。スタートからスピードに乗れず1分遅れでスタートした韓国選手にじわじわと追い上げられ、ラスト1周で追い抜かれ、50分45秒86で4位に終わった。

### ●ジュニア男子 (34.8km)

15ヶ国15名が参加、日本からは内野直也がスタート。内野は前半から積極的に飛ばし、一時は1分前に出た選手を追い上げる力走を見せたが、ラスト1周で思うようにペースを上げられず、48分51秒39で7位に終わる。

ジュニア男子個人タイムトライアル7位の内野



エリート女子個人タイムトライアル4位の上野





2月27日

## ●エリート男子(46.0km)

13ヶ国13名が参加、日本からは新城幸也がスタート。1組目の最終走者で一番時計であったが、2組目の目標タイムにされ惜しくも4位に終わった。

エリート男子個人タイムトライアル4位の新城



## [個人ロードレース]

2月28日

## ●ジュニア男子(124.4km)

16ヶ国47名が参加、日本チームは久保田元気、西村大輝、内野直也の3名がスタート。9時の試合開始に合わせ、ギヤ比と自転車の計量、スタートサインを済ませる。

序盤戦は互いをけん制するペースで周回を重ね、4周目に入りお互いの力関係を探るかのように各チーム共にアタック合戦が始まり、単発で逃げのグループが出来るものの直ぐにメイン集

団に吸収されてしまう。

内野が積極的にアタックに乗り、前の集団でレースを展開するが、久保田、西村は集団の後方で走る展開が多く、日本チームの連係したレース展開が出来ないままラスト4周、集団からのアタックが一層激しくなり苦しくなった内野が集団の後方に下がってしまう。

集団の後方に日本チームの3名が固まって走っている時に、メイン集団から10名の選手が抜け出してしまう。集団とのタイム差1分となった所で内野がアタック、追走してきた3名の選

ジュニア男子個人ロードレースの最終周、トップ集団を単独で追う内野



ジュニア男子個人ロードレースのスタート



ジュニア男子個人ロードレースの久保田（中央） ジュニア男子個人ロードレースの西村（手前）



手と集団から抜け出しトップ集団を追い上げる。

10秒差ほど開いた瞬間、久保田もメイン集団からアタック、間もなく内野に追い付きトップ集団を追いかけるレース展開になった所で、メイン集団から西村がアタック、メイン集団のペースを上げてしまい内野、久保田の逃げグループを吸収してしまう。

ラスト3周終了間際、内野が再びメイン集団から抜け出し逃げのグループを追う。トップグループから脱落した選手を捕まえながら尚もアタック。ラスト周回は5名のトップ集団を単独で追い上げ、ゴール手前2kmでトップ

集団に追い付きそのままゴール勝負となった。

追い上げで全力を使ってしまった内野は惜しくも4位でゴール、西村11位、久保田18位に終わる。

レースについての徹底した詳細の指示が出来なかったことで、選手の力を出し切れずに終わらせてしまった。

#### ●エリート女子 (124.4km)

スタートからスローペースとなりアジアレース特有のレース展開で周回を重ねてゆく、メイン集団から逃げを試みてアタックがあるものの、直ぐに集団に吸収される。

各国4名エントリーだが、日本からは上野みなみ、明珍裕子の2名参加で不利な状況の中、各チームの戦いを見据えながらチャンスにはアタックに乗る戦いでレースを展開する。

平坦コースで逃げが決まらずメイン集団が崩れないまま集団ゴール勝負となり、昨年アジア大会で優勝したHsiao Mei Yu(チャイニースタイペイ)が危なげなくゴールスプリントを制し優勝。Hsiao Mei Yuをマークしてゴール勝負するように指示するが、マーク出来ずに上野10位、明珍16位に終わった。

2月29日

#### ●エリート男子 (158.0km)

オリンピック参加枠の掛かったレースとあって、各国ともにレース前の緊張感が漂う中、暑さの最も厳しい状況下の中13時にスタート。

1周目はアタックもなく淡々と進み不気味なレース展開となる、2周目日本チームが動く他のチームも追随し一斉にアタック合戦となるが、なかなかメイン集団からの逃げは決まらない。

4周終了間際、新城を含む6名の選手がアタック。続いて宮澤を含む3名の選手が追走、トップ集団に宮澤のグループが追い付き、9名のトップ集団となり逃げのレース展開となる。

日本2名、カザフ、ウズベキ、香港、ベトナム、韓国、マレーシア、イランの各国1名の逃げは時折、先頭交替を拒否する選手が出るなど、ペースが一定しない状態になるとメイン集団とのタイム差が詰まる。

9周目トップ集団とメイン集団のタイム差1分、逃げ切るには微妙なタイム差になる。

メイン集団から福島を含む12名の



エリート女子個人ロードレース、上野（左から3人目）と明珍（右から3人目）



エリート男子個人ロードレース、スタート前の新城、宮澤、福島、畑中(左から)



宮澤(右)と新城(中央)



畑中(左)と福島



選手が抜け出しトップ集団を追走、ラスト5周にトップ集団を吸収すると同時に、Halmuratov Muradjan (ウズベキスタン) がアタック、直ぐに追走した新城がメイン集団から抜け出し2名で集団を引き離す。

その差は10秒。追走選手のアタックをことごとくマークに入った福島、宮澤のアシストでタイム差が徐々に開いて行き最大1分30秒差になった所で追走集団が崩れ、宮澤を含む5名の選手、続いて福島を含む4名の追走グループ、続いてメイン集団となる。

ラスト2周、新城、Halmuratov Muradjan の逃げは続くが追い上げる追走グループ、宮澤を含め6名の集団が20秒差となる。

徐々にタイム差が詰まる中、必死

にアタックをつぶし追走を許さない宮澤、ラスト周回に入り15秒差、ラスト5km10秒差。このまま追走グループに吸収されるかと思ったがラスト2km、追走グループが微妙に牽制気味となりタイム差が20秒差と開く、新城とHalmuratov Muradjan の逃げ切りは確実となった。

周回コースからフィニッシュに入りラスト200mウズベキ選手を一気に引き離し両手を高くと上げゴールした新城、オリンピック参加枠のアジア大陸枠1を獲得した瞬間であった。

終始積極的にレースを展開した新城、その逃げを最後の最後まで徹底的にアシストした、福島、宮澤、畑中の走りはチームワークで勝ち取った勝利である。(コーチ 高橋 松吉)

## 【競技結果】

第31回アジア自転車競技選手権大会  
第18回アジア・ジュニア自転車競技選手権大会  
(2011/2/16-19 タイ・ナコンチャシム)

### エリート男子個人タイムトライアル (46.0km)

- 1 WACKER Eugen KGZ 56:51.70
- 2 CRUZDEV Dmitriy KAZ 58:04.02
- 3 ASKARI Hossein IRI 58:08.48
- 4 新城 幸也 JPCA ヨロッパカー 58:28.02

### エリート女子個人タイムトライアル (34.8km)

- 1 NONTASIN Charpeng THA 48:07.36
- 2 SON Eunju KOR 49:44.28
- 3 WONG Wan Yiu HKG 50:28.94
- 4 上野みなみ 青森 鹿屋体大 50:45.86

### ジュニア男子個人タイムトライアル (34.8km)

- 1 KOLAHDOOZ Amir IRI 46:35.00
- 2 LEUNG Chun Wing HKG 47:17.68
- 3 PARK Sang Hoon KOR 47:22.57
- 7 内野 直也 埼玉 湘南ベルマーレ 48:51.39

### ジュニア女子個人タイムトライアル (12.4km) 不出場

- 1 JEONG Su Jeong KOR 17:45.13
- 2 LEUNG Bo Yee HKG 18:08.78
- 3 TRUONG Thi Bich Nhien VIE 18:20.79

### エリート男子個人ロードレース (158km)

- 1 新城 幸也 JPCA ヨロッパカー 3:40:01
- 2 HALMURATOV, Muradjan UZB 3:40:02
- 3 ASKARI, Hossein IRI 3:40:34



- 6 宮澤 崇史 長野 フェルネゼ・ベニ 3:40:50
- 9 福島 晋一 JPCA トンガノプロ 3:41:26
- 36 畑中 勇介 東京 シムル・シグ 3:49:15

### エリート女子個人ロードレース (124.4km)

- 1 HSIAO Mei Yu TPE 3:32:48
- 2 Gu Sungeun KOR 3:32:48
- 3 MANEEPHAN Jutatip THA 3:32:48
- 10 上野みなみ 青森 鹿屋体育大 3:32:48
- 16 明珍 裕子 岐阜 朝日大学 3:32:48

### ジュニア男子個人ロードレース (124.4km)

- 1 PARK Sang Hoon KOR 3:04:39
- 2 WONG Tsz Chin HKG 3:04:39
- 3 LIM Rustom PHI 3:04:39
- 4 内野 直也 埼玉 湘南ベルマーレ 3:04:39
- 11 西村 大輝 東京 昭和第一学 3:05:26
- 18 久保田元気 福島 学法石川高 3:07:41

### ジュニア女子個人ロードレース (79.6km) 不出場

- 1 LEUNG Bo Yee HKG 2:31:32
- 2 NGUYEN Thi That VIE 2:31:36
- 3 LIU Wai Ting HKG 2:31:36





エリート男子個人ロードレース金メダル新城のフィニッシュ



この広報誌は、競輪の補助金を受けて作成しました。

<http://ringring-keirin.jp>

< JCF オフィシャル・スポンサー >



< JCF オフィシャル・サプライヤー >



シクリスムエコー No.178 2011年アジア選手権 特集号

発行/財団法人日本自転車競技連盟

発行人/岩楯昭一

編集人/井関康正

編集事務局/財団法人日本自転車競技連盟事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂 1-9-3 日本自転車会館内

TEL03-3582-3713 FAX03-5561-0508 <http://www.jcf.or.jp/>

